FD NEWSLETTER

CONTENTS

- ＦＤ活動は大学運営のあり方そのもの
  グローバル・メディア・スタディーズ学部長
  福家　秀紀
- 平成 23 年度公開授業の実施について
  ■公開授業について
  医療健康科学部教授　西尾　誠示
  ■公開授業を終えて
  グローバル・メディア・スタディーズ学部
  講師　南　政樹
- ストレッチ不足の学生
  総合教育研究部スポーツ・健康科学部門
  講師　末次　美樹
- ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

ＦＤ活動は大学運営のあり方そのもの

グローバル・メディア・スタディーズ学部長
福家　秀紀

大学教員の仲間入りをして 10 年余になるが、終了時間のない会議開催通知等、依然として違和感を覚えることが多々ある。ＦＤに関しても同様である。

企業経営においては、顧客満足度の向上が重要課題の一つであるが、大学におけるＦＤ活動は、顧客たる学生の満足度の向上を目指したものであろう。これを、情報の経済学でいうエージェンシー問題として考えてみる。ここには、プリンシパルとしての大学当局とエージェントとしての教員、プリンシパルとしての学生とエージェントとしての教員、という二重のエージェンシー問題が存在する。いずれの場合にも、プリンシパルとエージェントとの利害は一致せず、プリンシパルとエージェントとの間に、情報の非対称性が存在する。このような場合、エージェントがプリンシパルの望むような行動を取らないモラルハザードが発生する。大学当局は、教員に対して、教育・研究の質の向上による学生の確保を期待するが、教員が期待通りに行動する保障はない。また、学生も「よい講義」を望むが、教員が講義に全力を注入するとは限らない。

授業評価アンケートはこのような問題を解決するためのモニタリングの手段の一つであるが、「楽に単位を取って卒業したい」と考える学生は、充実している講義に高い評価を与えるとは限らないことなどが考慮されていないなど不十分である。

モニタリングが困難だとすると、プリンシパルに「よい講義」をしようとするインセンティブを付与する必要があるが、これも、教員の善意に頼っている現状では現実性がない。当大学で驚いたのは、定期試験期間中の試験の実施が義務付けられていないことである。講義回数の確保・追試などの面で学生サービス上好ましくないことは、明らかであるが、現状では、教員にディスインセンティブを与えているとしか言いようがない。

企業経営において、従業員の努力を引き出す方法の一つは、努力しない言い訳を一つ一つつぶすことである。大学のケースに戻れば、教育・研究予算を惜しまない姿勢を示し、教育・研究のサポート体制を充実させることである。

そのように考えると、ＦＤとは大学運営のあり方そのものを見直すことであることが見えて来よう。

平成 23 年度公開授業の実施について

平成 23 年度「公開授業」を以下のとおり実施した。「公開授業」は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。公開授業は、各学部等のＦＤ推進部会のご協力により、各学部等主体にて実施された。

担当教員	科　目　名	日　時／時　限／教　場	授　業　内　容
仏教学部 講師・藤井　淳	日本仏教文化史	１２月８日（木） ２時限 １－２０３	主に学部１年生を対象に、日本文化と仏教との関わりについて、興味を持ってもらえるようにパワーポイントを使用して講義する。
文学部心理学科 教授・八巻　秀	臨床心理学	１２月７日（水） ５時限 ９－１７９	「臨床心理学的子育て論」
経済学部	経済学部は、１１月２８日（月）から１２月３日（土）の期間に公開授業を実施します。実施科目については、ＫＯＮＭＡのインフォメーションでお知らせいたします。（４９科目を予定しています。）		
法学部 講師・吉田　純平	民事執行法・保全法	１１月２２日（火） ３時限 ２研－１０１	担保権実行としての競売に関して、基本的な制度の解説とともに、判例を通じて重要な論点の検討を行う。
経営学部 教授・猿山　義広	簿記学	１１月２５日(金) ３時限 ２研－２０３	土地、建物、車両、備品といった有形固定資産の取得と売却、ならびに減価償却に関する会計処理について説明する。
経営学部 教授・中村　公一	経営戦略論	１１月２５日（金） ３時限 ９－３９２ （教場は５００人規模の大教場なので、後ろではなく、前方付近にご着席下さい）	アキバの戦略論 －地域企業の経営戦略－ 競合するビジネスをしている企業や店舗が、特定地域に集まっているにもかかわらず、競争だけではなく協調的な関係も見られるということを検討する。事例として秋葉原の集積を用いる。（なおＡＫＢ４８の戦略ではないのでご注意を）

担当教員	科　目　名	日　時／時　限／教　場	授　業　内　容
医療健康科学部 主担当・西尾誠示、 名古安伸、田中隆、 吉川達生、谷口貴久、 五十嵐太郎	画像検査技術学 基礎実習	１１月２６日（土） ３、４時限 ７－１０８	人体模型を使用したエックス線撮影、CT検査の実習
グローバル・メディア・スタディーズ学部 講師・南　政樹	ネットワーク進化論	１１月２９日（火） ２時限 ７－３０１	「インターネットの進化はグローバル社会に必要か？」 講義で学んだ技術的背景と実生活における体験を元に、履修者一人ひとりが意見を発表し、それに基づいてディスカッションする。
総合教育研究部 教授・持丸　真里	化学	１１月２５日（金） ２時限／１－３０４	遺伝子組換え実験の原理
総合教育研究部 講師・小黒　昌文	フランス語ＩＢ （選）	１２月２日（金） ２時限／７－３０５	直接法複合過去形の理解と実践

公開授業について

医療健康科学部教授　西尾　誠示

医療健康科学部は 11 月 26 日(土)、「診療画像技術学実験」の公開授業を行いました。

この授業は通常の講義における理論を確認するとともに臨床現場で行われる画像検査の基礎を身につけることを目的としています。学内の実習室は診療施設ではないので法的に人を検査することはできませんが、学生はファントムと呼ばれる模擬人体を使用して画像の習得法などを学び、撮影技術と画像の因果関係を理解していきます。

授業は学生が 6 人ほどのグループに分かれ、それぞれ異なる実習テーマごとに6人の教員がついて同じフロアで指導しているので、毎週がお互いに「公開」しているような状況です。実習は主にそれぞれの臨床現場から専門家が来て指導しますが、指導方法は教員ごとに異なります。マニュアルに沿ってきめ細かに手とり足とり指導する、あるいは学生同士で相談させながらじっと見守る、講義の理論を実証させる、等それぞれの指導方法を垣間見て、参考にさせてもらっていますが、医療に携わる先生には常に学生に臨床の息吹を与えて欲しいという思いでいます。

ある教員が高校生グループを引率し私の授業を聴講させたのですが、私も学生も普段中々経験できない緊張感を味わいました。教員がお互いの授業を聴講しあうことは予備校などでは日常的に行われていると聞きます。自分の講義を他の専門家に評価してもらうことは、授業の質を見直す良いきっかけになるでしょう。

今回の「公開授業」は参加者の関係で目的には至りませんでしたが、ＦＤ活動を継続することで、授業のみでなく大学がより良くなることを期待します。

公開授業を終えて～平成 23 年度公開授業報告～

グローバル・メディア・スタディーズ学部講師　南　政樹

「グローバル社会にインターネットは必要か？」

「ネットワーク進化論」は、インターネットの技術的背景と原理を学んだ上で、地球規模のコンピュータネットワークとして社会インフラとなり、発展し続けるその要因や理由を、様々な事例から考察・検証している。

特に成長に伴い巨大化していくのに対し、そのことを利用者がほとんど意識せずにコミュニケーションできている点に着目し、ブラックボックス化されがちなインターネットの本当の姿、すなわち隠れている巧妙な構造と運用手法を理解し、身近な出来事と関連付けることで、地球規模の社会を支え得る情報基盤のあるべき姿を模索することを履修者に課している。

公開授業では「グローバル社会にインターネットは必要か？」というテーマを掲げ、それに関連する３つの問いについて、それぞれ賛成・反対を表明した上で、その理由について述べ、議論するテーマディスカッションを実施した。

１）　グローバル社会の情報インフラはインターネットである

２）　グローバル社会が進むためには、地球上のすべての場所でインターネットを利用できるようにすべきである

３）　グローバル社会で生きるために小さい頃からインターネットに触れることが大切である

実施に際し、事前に３つの問いを記したディスカッションシートを配布し当日までに記述すること、記述したものを講義中に全員が発表すること、さらに講義終了後にディスカッションシートを回収すること、を告げスムースなディスカッションを誘発できるよう工夫した。

結果として、概ねどの問いに対しても賛成・反対の意見が分かれ、予想を上回る議論が展開された。特に、２）については文言としては全く触れていないにも関わらず、社会インフラ整備の支援やそのあり方に議論が及び、グローバルガバナンスあるいはインターネットガバナンスに議論が発展した。

ディスカッションの最後には、履修者からいくつかのまとめの意見が挙げられた。たとえば、それぞれの設問に対して多くの人が考えてきた理由には幾つかの傾向がありそれが共通して考えるべき課題と考えられること、３つの問いは独立して考えようとしても難しく他の問いと強く関連付けられること、などである。

ディスカッションにより単元で取り上げるべき要点を浮き彫りにする手法はそれほど目新しくはない。しかし、その一方で、自身が担当する大部分の講義が一方的な知識の伝達という古典的教育手法の枠を超え切れていない点から、今回の試みは、次年度以降の講義をデザインする上で大きなヒントとなった。

～公開授業の授業風景～

医療健康科学部「画像検査技術学基礎実習」

ＧＭＳ学部「ネットワーク進化論」

ストレッチ不足の学生

総合教育健康部スポーツ・健康科学部門
講師　末次　美樹

ビジョガー、巻くだけダイエット、ウォーキング同好会、ヨガなど、健康に関する言葉を目にしたり耳にしたりすることが多くなった。駒沢公園でも朝からジョギングやウォーキングを楽しむ人たちが増えている。健康的な生活を意識し、運動を生活の一部に取り入れる人たちがここ何年かで急増しているという。世の中が豊かになるにつれ、日常生活で身体を動かす機会が減少した。「便利な社会」が、運動不足の人間を増加させ、ストレスや贅沢病と呼ばれる生活習慣病を生み出しているのである。

玉川校舎で＜健康・スポーツ実習＞を担当しているため、一年生の体力や姿勢、柔軟性などを意識して見ることが多い。最近、特に目立ってきているのが、学生の身体の硬さである。身体の固さと姿勢の悪さが毎年増加しているのだ。

学生に聞くと、「身体を動かす習慣がまったくない」「週一回のこの授業だけしか動かない」「受験で身体をまったく動かしてない」「昔は柔らかかったのに…」「ストレッチなんて意識してやったことがない」「昔から身体が固い」「若いから大丈夫」などいろんな言葉が返ってくる。学生の日常は、健康志向に向かっている世の中とは逆の傾向に向かっている。10 代後半から 20 代前半の 1 年生は、運動する機会がほとんどない。自分の身体がカチカチに固まっていることに気付けない環境なのである。学生の将来が心配である。

以前は準備体操と整理体操を軽くやる程度だったが、毎年増加する＜カチカチ学生＞に合わせ、ストレッチにも時間をかけるようになった。家でもできるストレッチからペアで行うストレッチまで、いろんなことをやる。まずは、自身の身体の状態を知ってもらい、そして身体の変化や特徴に気づかせるのである。「若いからまだ大丈夫」は通用しない。一生付き合っていく自分の身体を知り、大切にケアすることの重要性を知ってもらうのである。「身体を動かさないと自転車のチェーンのようにサビついてしまうよ」と口癖のように言っている。早いうちに、身体の特徴に気づけたことはラッキーである。これからも、自身の健康と向き合い、運動習慣を持続してもらうことを学生には期待している。

講義では、90 分同じ姿勢でいることが多く、肩や腰に負担をかけていることが多い。授業の合間に、呼吸を意識しながら背伸びをしてみたり首をゆっくり大きく回したりしてみてはどうだろうか？頭がすっきりし、授業への取り組み方も変わるかもしれない。

ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

○　平成 23 年度第 6 回ＦＤ推進委員会小委員会
　平成 24 年 1 月 25 日（水）

＊ＦＤ活動についてご意見がありましたら、各学部等のＦＤ推進委員会小委員会委員まで申し出てください。

○ＦＤ研修会の順延のお知らせ

平成 23 年 12 月 7 日（水）開催予定のＦＤ研修会は順延となりました。

次回の開催日が決まりましたら、お知らせいたします。

編集後記

「絆」という言葉を心から感じた２０１１年も残り少なくなる季節となりました。

社会の成熟に伴って、大学教育の機会拡充への期待が高まる中、学生の多様化もあって、教育についてもさまざまな工夫が必要になって来ています。ＦＤ活動では教育においても、一人一人を大切にするとの観点から、教員と学生、また学生同士の「絆」を大切にする関わり方に注目してきました。イギリスで発達したチュートリアルクラスに見られるように、講義や演習、実験実習は、学生の主体的な参加を促すものとしてだけでなく、教員と学生、学生同士の「絆」を深めるものとしても重要であると考えています。その一方で、科目によっては多人数授業になるものもあり、そこでどのように学生との関係を築くかが大きな課題となっています。21 世紀の大学は、多彩な年齢･経歴の学生と教員の互いの尊敬と信頼に基づいた人間関係の「絆」をベースに、相互教育が促進されるべきものと考えます。今回のＦＤニューズレターの特集である公開授業でもそのことが深く感じられる年でありました。ご協力頂きました先生方はじめ皆様に感謝申し上げます。　　（熊坂　さつき、白水　繁彦）

【タイトル横の写真は、陸上競技部の全日本大学駅伝優勝報告会および箱根駅伝の壮行会（11 月 29 日開催）】

ＦＤ NEWSLETTER Dec. 2011 第 29 号

発行日：2011 年 12 月 15 日
発行者：駒澤大学ＦＤ推進委員会
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1
TEL 03-3418-9444　Fax 03-3418-9114
（事務局：教務部）